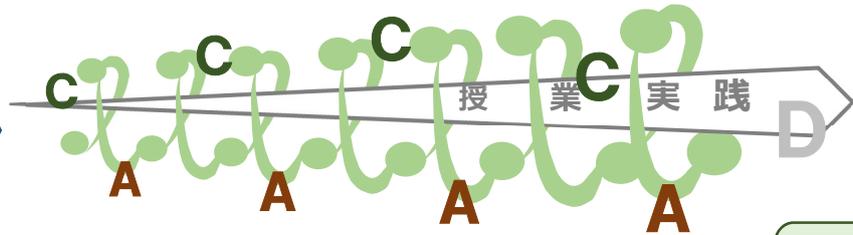


P 指導計画
 終末に
 「何ができるようになるか」



資質・能力が育まれ
 学校の教育目標が
 具現される。

C 「主体的・対話的で深い学び」の視点

生徒の
 つぶやきや
 様相から Check!


「友だちはどうしているかな」
 「そんな表し方(見方)もあるのか」

□Check 3
 ・困ったときには、友だちの活動や作品を自由に見たり、友だちに相談したりしながら制作しているか

「日常生活でも新しいものを創り出したいな」
 「美術は生活を豊かにしているんだな」

□Check 6
 ・新しいものを創り出した喜びを実感しているか
 ・生活や社会での美術の役割を感じているか

「〇〇な感じを表すことができたぞ」
 「いろいろな見方ができて楽しかったな」

□Check 5
 ・活動を振り返り、自分や友だちの表現または見方や感じ方のよさを味わっているか

「こうすればできそうだ」

□Check 2
 ・活動の過程や出口をイメージし、見通しをもつことができたか

「これはどうかな」
 「これもやってみよう」

□Check 4
 ・表現形式や技法、材料や用具、資料などを選択しながら、表現や鑑賞を追求しているか

「〇〇を描き(つくり)たいな」
 「すてきだ(面白い)な」

□Check 1
 ・表したいことを見つけているか
 ・作品など対象のよさや面白さを感じているか

A 授業改善のポイント

創造性(新しいものを生み出す力)を大切にする美術科では、特に **Check 4** の意識や姿が重要です。発想が行き詰った時こそ、さらに自ら新しい表現を求める姿を生み出すことが大切です。そうした姿を生み出すために、まずは題材の導入で、教師の示範作品などを見せながら **Check 2** の意識や姿を生み出します。その時も、示範作品よりも面白いものを考え、新しいものを創り出すことのねうちと楽しさを伝えることが大切です。

- ☞ 1 (1) 表したいことを見つけるためには
 - ・生徒自身の体験や心の内面を深く見つめたり、身近な人や環境、さらには社会全体に目を向けたりしながら、一人一人が表したいもの(主題)を見つけさせることが大切です。
- ☞ 1 (2) 対象のよさや面白さを感じるためには
 - ・視点を示したり、生徒が見つけた視点を価値付けたりすることで見方・感じ方を広げることができます。
- ☞ 2 見通しをもつためには
 - ・「自らの思いや願いとのずれ」「新しい表現や美しいもの、面白いものとの出会い」などから自分の課題や学習状況を判断させることができます。また、資料だけでなく、生徒の活動レベルで教師の示範を見せることが大切です。
 - ・例えば線の「太さ」「長さ」「方向」など、表現のための工夫のポイント(造形の要素)または鑑賞するための視点を示すことが大切です。
 - ・小学校からの学びの系統性を把握し、これまで学んだことが生かせるようにすることが大切です。

- ☞ 3 困ったときに、友だちの活動や作品を自由に見たり、友だちに相談したりするためには
 - ・班隊形で活動(表現)することで、必要に応じて仲間の表現を見たり、互いに教え合ったりすることができます。
 - ・鑑賞では、班に1枚の作品を配付し、自分の見つけたことを付箋で貼ることで、自然な交流を生み出すことができます。
 - ・毎時間ではなく、生徒が「表したいことを十分表したり、自分の見方で十分鑑賞したりしたとき」または「これ以上どうしたらいいか困っているとき」などには、生徒の必要感を捉えて友だちと交流する時間をとることが有効です。
- ☞ 4 表現形式や技法、材料や用具、資料などを選択しながら追求するためには
 - ・主題と表現とのつながりを問いかけることが大切です。
 - ・より質の高い目標をもたせ、失敗してもつくり直す経験をさせ、乗り越える満足感と自信をもたせることが大切です。
 - ・鑑賞では、何かを見付けるだけでなく、「作品全体からのイメージ」を感じ取ることが大切です。
- ☞ 5 自分や友人の表現または見方や感じ方のよさを味わうためには
 - ・デジタルカメラ等で保存した前時の作品と比べる(何をやったかだけでなく、どのような感じになったかを感じ取る)ことで、表現の変容を実感させることができます。
- ☞ 6 (1) 新しいものを創り出す喜びを実感するためには
 - ・他とは違うその生徒だけの表現(見方や感じ方)を価値付けることで、どの生徒も新しいものを創り出すねうちを感じ、さらに追求する意識が高まります。また、さらにやりたいこと(次時の課題)を見つけさせることが大切です。
- ☞ 6 (2) 生活や社会での美術の役割を感じるためには
 - ・特にA表現(1)イの題材の出口では、作品を家で使ったり地域で広く見てもらったりするなどの設定により、相手意識をもたせるとともに、生活や社会での美術の役割を感じさせることができます。



ここに示したものは、あくまでも一例です。周りの同僚の実践や、学習指導要領解説編なども参考にして授業改善を図りましょう。